

企業内技術士の声

仕事ってというのは、二階建ての家みたいなものだ

おおや こういちろう
大宅 公一郎

(農業、総合技術監理・佐賀)



起

直木賞受賞作、池井戸潤「下町ロケット」で、経営者が若い社員に仕事について語る場面がある。

「俺はな、仕事ってというのは、二階建ての家みたいなものだと思う。一階部分は飯を食うためだ。必要な金を稼ぎ、生活していくために働く。だけど、それだけじゃあ窮屈だ。だから、仕事には夢がなきゃならないと思う。それが二階部分だ。」

私は、佐賀県庁の農業土木技術者として36年間勤め、(株)親和コンサルタントに再就職して3年が経つ。県庁時代は圃場整備や上場台地の開発、筑後川下流のかんがい排水、白石平野の地盤沈下対策など地元の夢、期待を担ってきた。

国の基準と地元の難しい注文の板挟みで頭の痛い毎日であったが、無事現場ができ上がると地元と一緒に喜び、技術者としての喜びも感じた。

承

建設コンサルタントの仕事は、地元の夢を実現するための「縁の下の力持ち」ではあるが、地元との協働作業であるという熱い心が湧きづらい。さらに現場施工は建設業者が行うため、仕事の達成感の半分は他人事と感じられる。

また、会社としては、得手、不得手の分野があり、社員の希望というよりも会社の都合で受注業務が決まってしまう。会社の経営上やむを得ないが、その結果、同じような測量、設計の繰り返しが続くマンネリ化は否めない。社員に夢を持って働いてもらうにはどうすればいいのか。

夢の一つにNPO活動がある。例えば、佐賀県ではクリーク水路の護岸整備に間伐材の木杭を利用している。幹線水路は地盤改良とブロックマットで整備しているが、山林の再生、低コストのために支線水路は間伐材の木杭を利用している。しかし、生木は水際から腐れやすく10年程度の耐久性しかない。

そこで、間伐材のスギや檜を長持ちさせるためにNPO技術交流フォーラムの中で産+官+学が連携し、木杭の腐食対策を研究している。

さらに有明海沿岸道路では構造物の基礎に木杭に木杭を継いで利用できないかも研究している。

転

コンサルタントはまじめな人が多い。パソコン相手に夜遅くまで一人で黙々と仕事している。営業のように、もっと世の中に討手出ていく必要がある。そのためには、応援歌を歌い元気をだすことだ。

NPO技術交流フォーラム 応援歌

「行け行けフォーラム！」

- 一、思い込んだら 試練の道を行くが一男の ど根性
真っ赤に燃える 地元の期待
新たな技術を 築くまで
血を汗流せ 涙をふくな
行け行けフォーラム どんと行け！
- 二、腕も折れよと 掛け矢を振るい
木杭打ち込む ど根性
軟弱地盤 クリーク護岸
しっかり成果を つかむまで
血を汗流せ 涙をふくな
行け行けフォーラム どんと行け！
- 三、やるぞどこまでも 技術のために
職場一超えて 集まる仲間
でっかく生きろ 地域のために
インフラ整備を果たすまで
血を汗流せ スクラム組んで
行け行けフォーラム どんと行け！
- 四、橋梁一トンネルの 安全確保
劣化一を防ぐ 点検補修
大事に使おう 長一く活かそう
持続可能な 世の中に
頭を使え 技術を磨け
行け行けフォーラム どんと行け！

結

大学をはじめ研究・技術の分野は専門性の高さが重視され、多岐に枝分かれしている。二階から眺める、俯瞰できる人が育たねばならない。

NPO技術交流フォーラムでは、若手技術者の技術士受検対策としてPE道場を開き、そこでは技術者としての夢を描かせている。

「技術士への扉が開く時、あなたは現場と社会の懸け橋になる」

私は佐賀県青春寮歌祭を主催している。“友の憂ひに吾は泣き、吾が喜びに友は舞ふ”旧制第一高等学校の寮歌の一節であるが、寮歌祭では新制、私立大学も参加し同窓会の垣根を越えて交流する。11月19日(土)、第24回を開催する。

(E-mail : ooya@sinwa-consultant.jp)